

おひな様

及川ふみ

今年のおひな様は、臺とおひな様を一枚の紙につけてつくる事に、工夫をいたしました。

別圖第二圖の様に謄寫いたしましたものを臺の前方、左右の三面を赤、黄、緑の三色にぬります、おひな様は、親王、内裏には圓の部分があるのでありますから、それくの装束には幼児に各自、模様をかゝせたり、或は千代紙なぎをばらせてもよいのであります。

裾の折りかへしには、親王様の方は水色、黄色の二色位、ぬり、内裏様の方は、桃色、赤なぎの二色をぬります。色紙を三角形に桃色や赤を切つてはり付けてもよいのであります。

色ぬりや、模様のはりつけが出来ましたならば、實線のところを切り、圓の斜線のところは切りおきます。點線のところは折り、裾のおりかしの三角と三角とが、第一圖

の様につき合せにして下より一センチ位はなれたところを糸で縫ひつけます。この時この糸は臺にも通して左右を合せると同時に臺にもつけるわけであります。

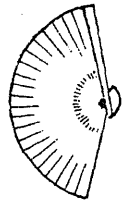
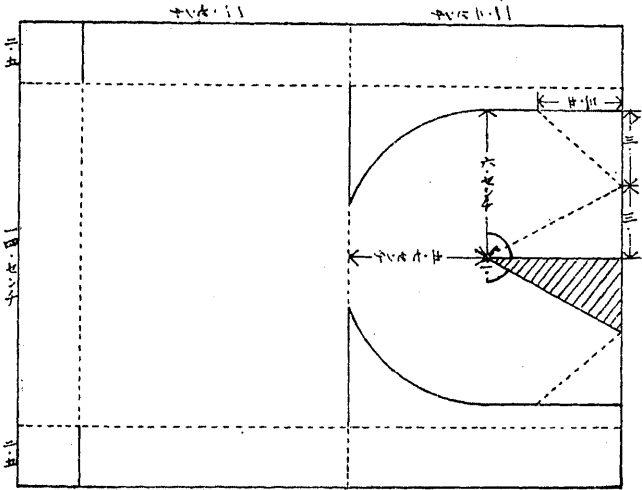
次に第三圖の様に謄寫したもので、三官女、五人嬭をいたします。

三官女は、圓の半分(中心より)は黄色、あま半分は赤にぬるか、或は色紙ではり分けるかいたします。

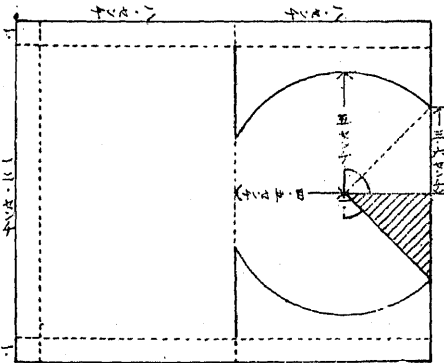
五人嬭は、圓の半分を、緑とし、あま半分は黄色に染め分けたり、色紙ではり分けます。

裾は内裏様の様な、おりかへしはありませんから、斜線の部分を切りおきして點線のところまで重ねて糸で縫ひつけます。

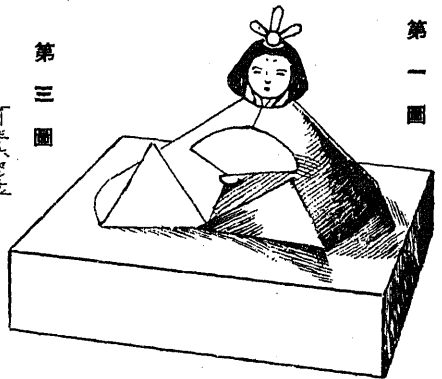
顔はいづれも、既成のお雛様なごお部屋に飾つておいて、それを参考に幼児各兒にかゝせるこよいのであります。



第二圖



第三圖



第一圖

衣用

す。圓心から一センチ位はなれた場所へ、はりつけたり、さしこんだりいたします。

これを一々の幼児につくらせるのもなか／＼容易ではありませんから、各幼児には、内裏、親王をつくらせ、その他のものは數人で一組のお雛様セットを作るこいふ風にいたします。

顔なき御参考までに書いておきましたわけであります。内裏雛は畫用紙八ツ切で一つ、三官女、五人囃は十六切で一つ出来るわけであります。

上野謙二氏著「新幼児ばなし三百六十五日」の冬の巻が発行されました。誌上紹介いたします。既刊の春の巻三つゞいて上梓されます。夏・秋の巻三四巻の一部で、書名にあります通り一日一日に行届いた配當がされてるますお話はずる分各方面に廣く材料がさられてあり、「國民生活の淵源、代表、記念を幼児に生かすこゝに努め」られてあります。

(厚生閣)

(五十六頁よりつゞく)

一寸もかはらない、無事に各幼児を家庭へ送りこゞけてやつミの事でくつろいだ時、あゝ今一度こんな氣のもめる時があるのかミ安心したやうな、心配なやうな氣持で床につきました。その夜しばらく振りて夢を見ました。事柄はよくわからないのですが、朝髪を結ぶ鏡に眞白な自分の髪がうつつて驚いてゐるミころでした。歌ふこゝよりもその送迎にほんミに氣骨のおれる事おびたゞしい。

十四日の放送當日は、幼稚園からいつて幼稚園へかへるので、はじめほぎのさわぎはありませんでした。銘々にラヂオせんべいを一箱づゞいたゞいてさもうれしそゝに歸りました。

みな様の幼稚園のこども達はみんな元氣でせうか。

今年に例年よりも寒さがはげしいといふことで、風邪、シフテリア、猩紅熱、水痘など大變流行つてをります由、マスクはもとよりうがひや手を洗ふことをまめにさせたいものです。